

ReMORI MONTHLY /

2023年8月号
vol.14
IN ゆすはら

林業情報を発信！
りもりマンスリー

特殊伐採の仕事！

協力隊を卒業した角金さんの仕事に密着！
笹岡 高志 | p.02

おさんぽ会始動！

「ゆすはら森のおさんぽ会」をレポート！
荒木 俊充 | p.03

いかだ作り体験！

ゆすはら学園5年生に森の授業を実施！
長谷川 夏輝 | p.04



梶原町森林再生プロジェクト
「りもりチャンネル」

りもりの活動やイベント風景、協力隊
のPR動画などを配信中！



KIRecub-きりかぶ-チャンネル

新たに立ち上げました！活動風景やイベ
ントの様子などを配信予定！



03 Instagram

ゆすはら地域おこし協力隊

リモリメンバーが林業を通して梶原町の魅力を発信中！



下村智也



山口佑貴



長谷川夏輝



荒木俊充



Coming Soon



Coming Soon

KIRecub-きりかぶ-

造林事業をメインに立ち上げた組織「KIRecub（きりかぶ）
有限責任事業組合」です。林業がもっと面白く活気のある
産業になるように様々な事業も展開していきます。



ゆすはら森のおさんぽ会

梶原の豊かな自然を活かした、自主保育型「森のようち
えん」活動。協力隊の荒木俊充が妻とともに、4歳と1歳
の子どもたちを連れ、町内各地で活動中。参加者随時募
集中！0歳からどなたでも参加していただけます。一緒
に自然を満喫しませんか？



WOODNEIGHBORS-ウッドネイバーズ-

協力隊を卒業した角金さんが個人事業主として開業。
ロープクライミングで樹上へアクセスし住宅や公共施設、
神社仏閣などの樹木の伐採(剪定)を事業としています。



Coming Soon

Coming Soon



◆ 編集・発行：梶原令和の森林づくり協議会 ReMORI-リモリ- 長谷川・笹岡

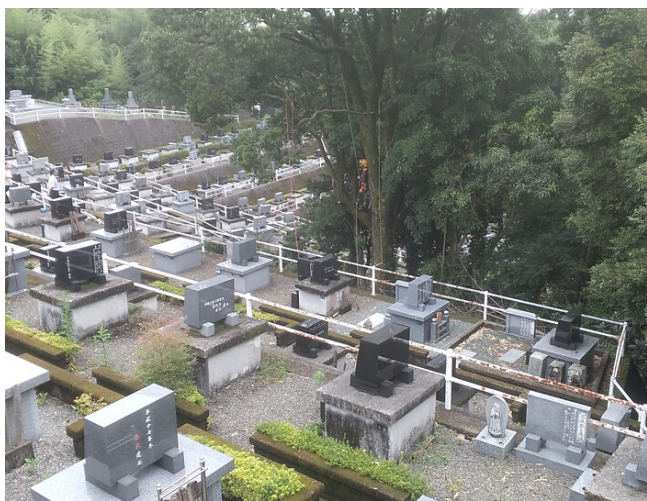
◆ お問い合わせ：森林の文化創造推進課 ◆ お電話：0889-65-0811

お気づきの点、ご意見・ご要望がございましたら上記までご連絡ください。

「屋号をWOODNEIGHBORS (ウッドネイバーズ) にしました」

6月末で協力隊を修了した角金玄さんが特殊伐採（高木や巨木を根元からでなく伐採する技術）で活躍しています。7月は町内外で5件の仕事をこなし、一定の収入を確保できたと言いました。5件のうち2件は町外で、香南市での仕事を見学してきました。

場所はのいち動物公園に近い「野市町墓地公園」でした。これほど規模の大きな公共の霊園があるのか？と驚きました。石の間を3分ほど歩いて下方を見ると、大きなクス木に取り付いた三人組を確認できました。



見学は7/8（土）作業初日に行きました

開園から約30年、クスは成長し、樹高が15mに達しようとしていました。枝を周辺に伸ばし、台風などで猛烈な風を受けると、折れて墓石を傷める恐れがあるのでしょう。霊園から（株）みどりの恵の森本代表に伐採依頼が来たそうです。森本さんは香美森林組合勤務時から特殊伐採を手掛けてきましたが、主に高所作業車などを使った伐採方法でした。霊園には、作業車やクレーン車は入れません。森本さんには協力隊員の育成支援でお世話になっています。今回の依頼物件を「角金クンの腕試しに絶好の機会」と考えてくれたようです。

現場に着くと角金さんは既にロープを使って木に登り、枝を払い始めていました。森本さんは「角金くんはHARDWOOD（樹木医業などを行う会社）の皆さんからツリークライミングの指導を受けているので、技術が高い。これからが楽しみ」と持ちあげてくれました。

作業は極めて慎重でした。足場を確保しつつ、地上にいる森本さんから受け取ったロープを足元の枝にかける。そして、チェーンソーを構えて正確に伐る。他の枝をクッションにして地面に下す。このタイミングを枝を落とすつつ両者（木の上下）が掴んでいく。徐々にペースが上がりました。



樹上作業を行う角金さん

万が一にも枝が撥ねて墓石を傷めることがあっては大変。朝から始まった作業で、角金さんは昼食まで木から降りることはありませんでした。不安定な樹上の作業です。体力と根気が要求される仕事だと感じました。

三人の協働作業は、2日間で全ての枝を落としました。つまり、クスは一本の幹だけになった。最終日は昼までに、幹を頭部から4回チェーンソーを入れて、作業を無事終えたそうです。

一方の町内は、コモリの谷田会長や梶原運送などが依頼を受けた仕事で、角金さんのロープ技が役立ったと言いました。また、8月も既に5件の仕事が入っているようです（7月末現在）。心身共にシンドイ仕事でしょうが、状況を電話で聞いて「角金、頑張る！」を感じました。

最後に、気恥ずかしそうな声で「屋号を決めました」の報告を受けました。グッドネイバーズ（よき隣人）にちなんで、『ウッドネイバーズ（木のよき隣人）』と命名したそうです。最後の「ズ」は「今後仲間を増やす」の意思表示と受け取りました。森本さんはじめ、各位のご協力に感謝申し上げます。有難うございました。ウッドネイバーズは順風の中を船出できました。これからは逆風も、嵐もありましょう。改めて、叱咤激励を宜しくお願いいたします。

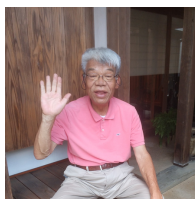
もっとFEATURE-フィーチャー-



WOODNEIGHBORS（ウッドネイバーズ）
角金玄 -Gen Tsunogane-

ゆすはら地域おこし協力隊の第1号。令和5年6月を以て3年任期を満了し、現在は、WOODNEIGHBORS（ウッドネイバーズ）の屋号を掲げて、特殊伐採の仕事で活躍中。

今回のREPORTER-リポーター-



梶原令和の森林づくり協議会「ReMORI」会長
笹岡高志 -Takashi Sasaoka-

高知市生まれの73歳。高知放送を退職後、週2回のペースで、梶原町を往復。8年が経過。梶原町産業担い手育成塾長（森林づくり）を経て、梶原令和の森林づくり協議会長。子ども3人、孫6人。拙宅は時々、孫たちで大賑わい。本日は静かです。

「ゆすはら森のおさんぽ会」はじめました

“ゆすはらの森に親しみ、森で育ち、ふるさとを誇りに思う子どもたちを...”

見たて遊びが
どんどん広がっていく



地域おこし協力隊の荒木俊充です。林業技術の修得とともに、僕なりの視点で栲原の豊かな森林資源を活用することにも力を入れています。

その中で今回は、6月末からはじめた「ゆすはら森のおさんぽ会」という、自主保育型の森のようちえん活動についてお伝えしたいと思います。

“自然にどっぷりと浸かり、子どもが好きなことを好きなだけできる場を”、“皆で助け合って一緒に子育て時間を味わう場を”...などの想いで始めた活動で、今年度は、平日開催の「0才からのおさんぽ会」と、日曜日開催の「親子でイベントDAY」の2種類の活動をしています。

「0才からのおさんぽ会」では、主に0歳～未就学児の親子を対象に、子どもたちのペースを大切に自然の中で過ごします。

「親子でイベントDAY」では、0歳からどなたでも参加できます。季節に合わせたイベントで、自然を満喫します。

この活動をしたと思うようになったきっかけは、愛知県在住時に当時1歳の長男を連れて森のようちえんの親子活動に参加したことです。1年間、夏期と冬期の長期休暇を除いて毎週同じお山に集まり、子どものペースで好きなことをする活動でした。季節とともに表情を変える自然の中で、自ら楽しいことを見つけて夢中になって遊び、少しずつ周りの子どもたちとの関係性をつくっていく息子の姿に感動したことが忘れられません。子どもの可能性や、それを引き出す自然保育・見守り保育の力を実感しました。

栲原の豊かな自然があれば、かなりおもしろい自然保育がおこなえるのではと、元小学校教諭の妻と協力して活動しています。また、全国森のようちえんネットワークにも入会し、さらに活動の幅を広げようと勉強中です。

主旨に賛同してくださる仲間も大募集中です。まずはぜひ一度ご参加ください。

主

主

主

これまでの活動

【0才からのおさんぽ会】

- ① 6月30日 @太郎川公園・ゆすはら湿生園
- ② 7月14日 @上成地区 お堂周辺
- ③ 7月28日 @九十九曲峠セラビロード

※活動の詳細様子はInstagramに掲載。表紙ページにQRコードあり。

【親子でイベントDAY】

- ① 7月30日 川遊び@広野 ※天候不良のため中止

雨のおさんぽも
素敵な発見がたくさん



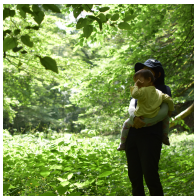
沢に入ったら
楽しいが止まらない



好きなことを
とことんやる



もっとFEATURE-フィーチャー-



「ゆすはら森のおさんぽ会」 が秘める可能性...?!

実は現在の参加者は、愛媛県から一時間ほどかけて来てくださる方がほとんど。栲原町の自然にはそれだけの魅力と価値があるのだと改めて感じる。今後、活動日数を増やし、毎日を森で過ごす“森のようちえん”となれば、移住促進の一つの目玉にもなるかも...?

今回のREPORTER-リポーター-



ゆすはら地域おこし協力隊 荒木 俊充 -Toshimitsu Araki-

2022年10月から協力隊として活動中。家族は妻、息子2人（4歳、1歳）、ヤギ2頭。林業技術の修得のほか森林資源の利活用にも注力。今年6月より元小学校教諭の妻とともに栲原町の豊かな自然を活かした自主保育型森のようちえん「ゆすはら森のおさんぽ会」を開始。

「ゆすはら学園5年生と ミニいかだ作りを行いました！」



林間学校前の森林学習パートを協力隊二人が担当

地域おこし協力隊の山口、長谷川が「令和4年度森林活用指導者育成研修」を受講したことをきっかけに、教育委員会の方から林間学校前の森林学習講師をやって欲しいとお声かけいただきました。昨年受けた研修では、子どもと森の関わり方を座学と実践形式で学びました。「こんなに早く実践の機会をもらえるとはありがたい！」と喜んで引き受けさせていただきました。

とはいえ、今回は授業やワークショップの内容から提案させていただき、気合と不安が半分ずつといった感じでした。

まず、海にシーカヤックをしに行くということを事前情報として伺っていた為、山と海の関係性を軸に考えました。色々考えた結果「山の枝を活用してミニいかだ作りをして海に浮かべてもらったらどうか？」という考えに行きつきました。みなさんにも無事ご賛同いただきこの企画で実施することとなりました。

内容は2部構成で、前半は「山と海の関係性、林業について」を座学形式で、後半は「ミニいかだ作りワークショップ」を行う段取りです。山口と二人で「小学5年生は興味を持ってくれるのだろうか？最初のイベントでコケるわけにはいかない・・・」と一抹の不安とともに、事前準備はかなり念入りにしましたね（笑）。

いかだで使う枝集めを始め、結び方の研究、当日の座学は子ども達にガンガン質問して行って巻き込むような形式に。ワークショップも作り方動画を作ってきて流すなど、今の子ども達に合うような雰囲気作りに努めました。

もっとFEATURE-フィーチャー-



ゆすはら地域おこし協力隊
山口 佑貴 -Yuki Yamaguchi-

高知県高知市出身の31歳。
今年で2年目の林業の協力隊員。
現在2児の子育て中。山仕事の他に家庭菜園、川釣りにレコードDJなど多趣味。造林組織「KIRecub-きりかぶ-」の一員。



みんな個性豊かなミニいかだを作ってくれました



2日目には海に実際に浮かべていただいたようです（嬉）

いよいよ当日、こちらの不安が吹き飛ばすような勢いで、子どもたちは楽しんでくれました。授業は真面目に、ワークショップは思いっきりはしゃぐという、なんともこちらが大助かりな反応（笑）。班ごとに分かれて全部で5台のいかだを作りました。「ぶっちゃけ、バラけなければいい」くらいの気持ちで自由にやってもらったのですが、その甲斐あって各班それぞれの個性が出たかと思えます。最後にいかだに名前をつけてもらい終了。そのままの元氣と（いかだと）共に林間学校へと出かけて行きました。

後日、海に実際に浮かべる様子を動画で見せていただきました。想像以上にちゃんと浮かんでいて、感無量でした（笑）。

この時間が少しでも山や林業に興味を持ってもらえるようなきっかけになってもらえれば嬉しい限りです！

イベントで流した「ミニいかだの作り方動画」をYouTubeにあげています。QRコードを読み込んで、お家で動画を見ながらやってみてください～（枝はご両親と探してみてくださいね！）



【木工遊び】枝と麻紐だけ！
「ミニいかだの作り方」

今回のREPORTER-リポーター-



ゆすはら地域おこし協力隊
長谷川 夏輝 -Natsuki Hasegawa-

神奈川県出身の地域おこし協力隊。
今年で2年目に突入。林業研修の他に、森林イベントの運営や木工などにも力を入れ始めました。
協力隊同士で立ち上げた組織「KIRecub-きりかぶ-」では、休みの日を活用して造林の仕事を請け負っています！